

木の言い分⑩

■ボダイジュの裏話

私の本業は、造園材料の販売です。仕事柄、取り扱う植物は多岐に渡り、その中には同名異種のものがあり、しばしばトラブルのもとになります。

例えば「ボダイジュ」と称される樹木は複数種存在します。よく見られるのは寺院などに植えられている種類ですが、実はこれ、シナボダイジュと呼ばれるものであり、本物ではありません。

なぜ別種が一般的に植えられているかといえば、仏教が中国に伝来した際、本物は熱帯産であったことから、中国に自生していたシナボダイジュを代用としたものが仏教と共に日本にも伝わったようです。しかしシナボダイジュも発芽率は悪く、繁殖しにくいため、更にその代用として日本に自生する近縁種のオオバボダイジュ、シナノキを植栽しているところも見られます。

また、葉形の全く異なるモクゲンジを種子を仏具の数珠の材料に使うという関連から、センダンバノボダイジュと称して植えてある例もあります。

一方、この中国産をシナボダイジュと和名を付けたことから、同じシナノキ属の欧州産のグループも総称的にセイヨウボダイジュと呼ばれるようになり、公園木、緑陰樹として各地で植栽されています。

では一体本物のボダイジュはどんなものかという、それはゴムノキの仲間の観葉植物なのです。耐寒性が弱く、よく伸び過ぎて樹形が崩れやすいため、一般には普及しておらず、植物園の温室内で栽培されている程度でなかなかお目にかかることはできません。

ちなみに、ゴムノキの仲間では近似種のベンガルボダイジュがベンガルゴムノキとして観葉植物扱いをされています。「ボダイジュ」と呼ばれる木は、こうして次々と変化して増えてきました。

■ボダイジュと呼ばれる樹木

インドボダイジュ	(クワノキ科)	仏教上の真正種
ベンガルボダイジュ	(クワノキ科)	観葉植物
シナボダイジュ	(シナノキ科)	一般寺院に植栽
オオバボダイジュ	(シナノキ科)	北日本に自生
シナノキ	(シナノキ科)	ボダイジュの代用
ナツボダイジュ	(シナノキ科)	西洋ボダイジュ
センダンバノボダイジュ	(ムクロジ科)	モクゲンジの別名